



六花

2010

平成22年

俳句雑誌りっか

Cover designed by Ritsie Hirdl

4月号

つ 燕来る目安を父に聞いてをり
れ 練習船迎ふる春の雨の中
づ 凶の通りたどり着けざり椿寺
れ 煉瓦道理め尽くしたる桜檠
な 菜を刻む音に覚めたる春の夢
る 流転せし疵よ河口の落椿
ま 窓際のふさがり花見列車発つ
ま 升縁に蒙古の塩を花見酒
に 荷車の押し引きならず春の泥

ひ 一夜なる雨に降り積む桜葉
ぐ ぐづくつと花見化粧をしてをりぬ
ら 楽茶碗花冷の手に包みけり
し 霜燻べ消防団の帽かぶり
す 摺り足で引き返したる花の川
ず 凶星なり鮎の乗^{のっ}込^こむ場所に来て
り 料亭に白魚の札吊り出さる
に 荷を出せる大安の日の春雨に
む 蒸らしぬる春筍のごはんかな

つ 鐸 広き帽子より花仰ぎたる
れ 蓮華草満たして空のやさしかり
づ 図体で花見の場所を守りぬたる
れ 連陰に辛夷の開花止まざりき
な 波風の中に盛りの桜かな
る 流刑者の島なほ遠く土降り
ま 巻尺で背を測る子よ麗らけし
ま 松ヶ枝にちらりほらりと散桜
に 肉桂を噛みしだきたる春愁

日の落葉月の落葉と並びけり 梶浦玲良子

薄氷の声や夕日の帰る村

止まりますバスがもの言ふ四温かな

凍蝶に月光仮面のささやける

地獄耳とほり抜けたる隙間風

ひのおちばつきのおちばとならびけり かじうられいりよう

「日の落葉月の落葉」という表現の巧みさ。日の落葉とは、昼に散った落葉。月の落葉とは夜に散った落葉のこと。それぞれの落葉が昼夜別々の時刻に散ったのだが、今は昼夜の区別なく同じ落葉として眼前にある。読者は日中でも肌寒くなった日差しの中に、ひと風ごとくにさーつと降る落葉の光景を、煌煌と照る月の光の中に、はらはらと散る木の葉の幻想的な場面を連想し、目の前の冬日に朽ちて行く落葉に物の哀れを見てとる。どこか人生の無常を示唆しているような味わいがあり、玲良子さんの底力を見た作品。

流水を陸へ押し来る風の音 牛尾 文雄

りゅうひょうをくがへおしくるかぜのおと うしおふみお

娘より待ち遠しくて雛祭

笑顔なる晴の姿よ桜舞ふ

若人に技伝へゐる春の夢

食卓に溢るる笑顔と黄水仙

壮大な景色を、風音で大胆に捉えた句。オホーツクから押し寄せて来る流水は、一夜に現れ、また消えるときも一夜に姿を消すという。掲句は流水が押し寄せて来ているときの場面で、風が流水を押し、流水は大地を押し。その吼えるような風音に混じり、流水はギユウギユウと化け物の歯ぎしりのような音を立てる。得体の知れない獣が攻めてきているような恐怖感を読者にもよく伝えてくれる。「陸へ押し来る」というのが力強い表現だ。「流水」という季語は大正末、山口誓子の「流水や宗谷の門波荒れやまず」が目ざれてから俳人たちに詠まれ始めた。

年忘れ

松本文一郎

山鳥の大鍋滾る年忘れ
鱈鍋や信濃仕立ての自在鉤
小春かな匏の滑る音軽く
小春日や屋根の仔猫の親離れ
棒鱈の飴色となり一の膳

大胆な背中

貝森光洋

大胆に背中の中の割れし鏡餅
冬帽子いかなる頭の出で来るや
ちちははの陰から小さな年始客
腹蹴りて胎内の児も初便り
老いてゆくこの身の何処かにも目張

せつじゆしゆう
雪樹集

鏡餅

永田勇

初日の出雲の隙間を広げけり
鏡餅開く掌につく赤き筋
鏡餅ひびの走りて来たりけり
鏡餅子が子を連れて来たりける
寒晴れや木々の輪郭鮮明に

侘助

筒井八重子

凍土を走り飛び立つ寒雀
侘助の葉陰に開き初めしかな
水仙の部屋中に香の満ちにけり
臘梅や満開の香に包まれて
紅白の万両並びぬたりけり

蛍雪譚 六甲

山鳥の大鍋滾る年忘れ

松本文一郎

山鳥の大鍋とは豪快な年忘れだ。年内の嫌なことも辛いこともすっかり洗い流されようというもの。作品は簡潔で調子（リズム）がよく気持ちがいい。山鳥は日本固有の鳥で、体型はキジと似ているが雄は鮮やかな赤茶色で尾羽は長い。飛ぶのはあまり得意でなく山を住処（すみか）にして、平野部に生息するキジとは棲み分けが行われている。夢風撰候補。

大胆に背中割れし鏡餅

貝森 光洋

物（この場合鏡餅）を女性にたとえる擬人化の貝森節が復活。勿論、鏡餅の背後の部分に大きな割れが生じている写生句。その割れていることを、女性の背中が大きく露出している衣服を暗喩（直接たとえないで、ある物を別の物にたとえる語法）させていて読者を楽しませる。夢風撰候補。

六花集 会員作品

小寺ふく子

向き合ひて語らふ如くつがひ鴨
葉隠れに紅のぞかせて寒椿
臘梅の香をこぼしつつ花ざかり
まとふ物皆脱ぎ捨てて山眠る
青き空遠嶺あらはに冬日和

菊谷 潔

霜枯や野あさる鳥凜と鳴く
椎の木を骨組みにして霜の朝
冬木立ふきわかれゆく風の音
草の戸や目立たぬ花を唐からの梅
霜の朝とりわけ里の鷓鴣